

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	神戸大学
日本側コーディネーター所属・氏名	大学院国際協力研究科・小川啓一
研究交流課題名	アジア・アフリカにおける教育行財政研究と持続的な若手研究者の育成
相手国及び拠点機関名	ミャンマー（ヤンゴン国立教育研究所）、タイ（チェンマイ大学）、ラオス（ラオス国立大学）、エジプト（カイロ大学）、イエメン（国立教育開発センター）、ウガンダ（マカレレ大学）、マラウイ（マラウイ大学）、韓国（ソウル国立大学）、中国（復旦大学）

【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

本事業では、本神戸大学国際協力研究科を中核とするアジア・アフリカ各国との「教育開発のための学術ネットワーク」の構築・強化を実施し、各対象国の若手研究者を対象とした持続発展性の高い共同研究体制を構築し、教育の質、内部効率性、公平性を保証する教育行財政のモデルを提示することを目標とする。本国際協力研究科がこれまでに構築したアジア・アフリカの開発途上国における研究交流の学術ネットワークをもとに、本事業では、既に交流のある米国コロンビア大学やピッツバーグ大学など北米の大学や世界銀行、アジア開発銀行、ユネスコ、ユニセフ等の国際機関とのネットワークと相互連携を一層強化させることにより、本研究分野における拠点形成を複層的に発展・充実させ、若手研究者にとって有益かつ持続発展性の高い「アジア・アフリカにおける教育開発学術ネットワーク」を構築する。また、参加国の中に各地域における拠点を形成し、実際に域内における持続的発展のための具体的な政策提言や人材育成に寄与する。

具体的には、以下の4つの目標を達成する。

- ① **国際共同研究・研究者交流**：対象国、機関所属の研究者を中心メンバーとする国際的かつ学際的な研究チームによる国際共同研究を実施する。
- ② **若手研究者の育成・研究能力の向上**：上記国際共同研究の実施において、神戸大学および参加大学・機関の若手研究者の積極的な参加を促し、若手研究者の育成・研究能力の向上を図る。海外の参加大学や国際機関、教育省にインターンシップ参加生として派遣し、途上国の現状を深く理解した研究者を育成する。
- ③ **国際フォーラムやセミナーの開催**：研究成果の発表・知見の共有のために、国際フォーラムやセミナーを開催し、国際的な成果・情報の発信を行う。途上国の政策策定者や国際援助機関の教育担当者との間でも研究成果を共有する。
- ④ **政策提言**：研究成果の発信を通じて、開発途上国の教育開発戦略、特にポスト2015に向けた教育行財政モデルと人材育成政策に関する政策提言を試みる。

【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

① 共同研究の実施

対象国、機関所属の研究者を中心メンバーとする国際的かつ学際的な研究チームによる国際共同研究を実施する。「ポスト MDGs を見据えた初等教育政策の再検証」を共通の研究課題とする。

② 国際セミナー等の開催

上記、国際共同研究の実施において、神戸大学および参加大学の若手研究者の積極的な参加を促し、若手研究者の育成・研究能力の向上を図る。研究成果の発信は、参加大学、機関において国際セミナーの開催という形で実施し、学術論文出版を通して行う。国際セミナーでは、研究者や研究員だけでなく、各機関の所属学生の積極的な参加を促し、学生同士が国境を越えて切磋琢磨する学生セッションを設け、博士課程学生も含む若手の研究者がそれぞれの博士論文研究について発表することを促す。

③ 研究者交流

上記の共同研究やセミナーの開催を通じて、途上国における「教育開発のための学術ネットワーク」を構築、充実させる。参加9大学・研究機関を中心として周辺地域を巻き込み効果的なネットワークへと充実させていく。また、インターネットやソーシャルネットワークサービス（SNS）上での学生交流の実施も継続的に促進し、若手研究者を中心とした持続発展性の高いネットワークに成長させていく計画である。

研究交流計画の目標・概要

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

